

現状の課題

外部試験や模試の結果を見ると、R、L、W、Sそれぞれにバラつきが見られる。生徒の実態を把握しながら、4技能をバランスよく育成するためにどのように授業を展開していけばいいのかを検討し、改善していく必要がある。

具体の取組の内容

- ・**授業と評価**: 毎回授業冒頭の5～10分を使って単語帳の確認。教科書の単元については、Listeningで本文の概要把握→読解→キーワードを用いたRetelling→Summary作成といったように、一連の流れの中で4技能をきちんと使えるように意識しながら授業を展開した。定期考査で英作文(英検、GTECの過去問を活用)を出題したり、Recitation Contestを実施したりしながら、生徒の表現力やOutput力を評価した。
- ・**公開授業(11月7日)**: 1、2、3年生のコミュニケーション英語の授業をそれぞれ公開した。グループで本文の読解に取り組んだり、読んだ内容をリテリングしたり、要約を書いたりなど、教科書を活用して4技能を高めることを意識した授業を展開した。(写真1)
- ・**英語外部試験の活用**: 1、2年生は夏休みにGTECアセスメント版、12月にGTEC検定版を全員で受験。また、希望者対象で毎年1月に本校を準会場として英検を実施している。今年度は197名が受験予定。朝自習や週末課題等で、英検やGTECの問題集を使っている。
- ・**発信力の実践(10月7、8日)**: 1、2年生は外国人留学生をファシリテーターとして、様々なテーマでディスカッションやプレゼンテーションを行った。今後、自己学習を経て、今年度、学習したことや身に付けた技能を実際に使って、プレゼンテーションに取り組む予定である。(写真2,3)

写真1→



↑写真2



↑写真3

成果①

- ・夏休み実施GTEC(アセスメント版)結果より
《1年生》 《2年生》

実施時期	今回			高1全国			実施時期	前回			今回			高2全国		
	スコア	CEFR-J	スコア	スコア	CEFR-J	スコア		スコア	CEFR-J	スコア	CEFR-J	スコア				
Total	647.5	A1.3	722				Total	710.0	A2.1	718.4	A2.1	771				
Reading	137.8	A1.3	152				Reading	144.1	A1.3	160.4	A2.1	166				
WPM	60.1	-	69				WPM	63.0	-	72.7	-	76				
Listening	147.0	A1.3	159				Listening	149.6	A1.3	170.3	A2.1	175				
Writing	200.6	A2.1	196				Writing	204.0	A2.1	203.1	A2.1	201				
Speaking	160.5	A1.3	196				Speaking	212.2	A2.1	184.4	A1.3	205				

※CEFR-J A2.1以上の生徒 1年生31% 2年生67.5%(前回59.5%)

- ・英検受験状況(毎年1月準会場実施分)

	20年1月	19年1月	18年1月
2級受験者数	83	43	80
2級合格者数	-	14	16
準2級受験者数	109	149	98
準2級合格者数	-	76	71
3級受験者数	5	24	5
3級合格者数	-	15	4

※その他、個人で申込み
公開会場で受験をして合
格した生徒も複数いる。

成果②

- ・普段の授業でRetellingやペアワークを取り入れたことで、英語で表現することについては抵抗なく取り組めるようになった生徒が多い。

- ・英検を受験する生徒が増加している。目標とする級合格に向け、高いモチベーションで英語の学習に取り組む生徒が増えた。Writingや2次面接の指導についても、必要に応じて英語科教員やALTで対応している。

- ・プレゼンテーションや留学生とのコミュニケーションでは、意欲的に取り組む姿が見られ、生徒の感想からも「学んだ表現を活用しながら、伝えたいことをきちんと発表できた」など、達成感を感じ、活動を肯定的に捉える生徒が多かった。

今後の課題・方向性

- ・長文を読むことに慣れていない生徒が多い。授業アンケートの中には、「単語帳に載っていても、長文の中でその単語が出てくると、意味をすぐに思い出すができない」という声もあった。

- ・GTECの結果をみるとSpeakingが課題である。自分の意見は言えるが、意見をサポートする理由まで述べるのは難しいようである。Speakingを授業でどのように指導するか、今後考える必要がある。

- ・CAN-DOリストを更に活用するため、生徒の取り組みの評価方法について検討を重ねたい。今年度は教科書の各Partが終わるごとに、R、L、W、Sそれぞれについて自己評価させていたが、今後はそれを集計して、指導の改善に役立てるなどの活用方法が考えられる。